

## 生乳脂肪酸組成を利用した乳用牛の飼養管理向上

### 【研究概要】

泌乳牛において乳期全体の生産成績（305日検定成績）を泌乳初期に予測可能か検証した。検証は泌乳初期の個体別脂肪酸組成値（X：デノボまたはプレフォーム）を用いた回帰式から乳期全体の個体別生産成績（Y）を予測した。予測する成績（Y）は乳量、乳質（乳脂量、無脂固形量）、乳中体細胞（リニアスコア）、繁殖（初回種付日数、空胎日数）の305日牛群検定成績とした。その中で、今年度は下記の成果が得られた。

- (1) 分娩後30または60日以内のデノボ%またはプレフォームド%から305日検定成績（乳量、乳質、乳中体細胞、繁殖）の回帰式を算出したところ、各回帰式の有意Fは0.05未満であることから回帰式は妥当で、分娩後の泌乳初期において乳期全体の生産成績（305日検定成績）が予測可能である。
- (2) 乳量及び乳質の回帰式はデノボで正、プレフォームで負、乳中体細胞及び繁殖の回帰式はデノボで負、プレフォームで正の相関となったことからデノボを増やし、プレフォームを減らすことが生産性向上につながる。